

やさしい昆虫講座 45

「僕の姿がみえるかな？」

木村 裕

以前にマダニなど人や動物に寄生するダニ類を取り上げましたが、あれはダニ一家の一族に過ぎません。まだまだたくさんおりますが、今回は樹木や野菜の葉っぱを住処とするハダニ一族を紹介しします。

樹木や果樹、野菜などの葉に寄生するダニの仲間をハダニ(葉っぱにつくダニ)と呼んでいます。体色は黄白色～赤～紅色と目立つ色はしていますが、何分にも大きさが1ミリ前後と小さいので見つけるのはかなり困難です。針に糸を通すことができるような目のよい人なら可能かも。私では無理で虫眼鏡を必要とします。

成虫と幼虫は同じような姿をしており、葉っぱの裏に寄り集まって口ばしを突っ込んで汁を吸います。虫そのものは小さいので吸う量も僅かですが、数百匹の虫が1枚の葉に群がるので塵も積もればで、被害は大きくなります。

最も被害の受けやすいのは、果樹ではナシ、リンゴ、ミカンです。被害がひどいと緑の葉が茶色になってばらばらと落下します。このようになると美味しい果実の収穫は見込めません。

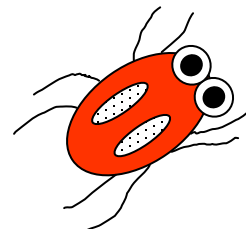
植木ではクロマツです。夏に葉っぱの色が褪せ、茶色になってくるのもこのハダニの仕業です。マツノザイセンチュウによるマツ枯れと間違う人が多いようです。マツ枯れは葉っぱが褐色になって水気がなくなりますが、ハダニの場合は葉っぱの色が褪せているだけで水気は残っています。



汁を吸われた部分は白い点状に色が抜ける

野菜では、ハウス栽培のナスやウリ類(キュウリ、メロン、スイカ)で最も厄介な害虫のひとつとなっています。しかし露地で栽培する家庭菜園では発生しても被害に結びつくことは少ないようです。

ハダニは昆虫よりもクモに近い仲間で、大量に発生すると糸を張り渡して綱渡りを楽しんでいます。成虫は毎日数個の卵(球形)を葉裏に産み、ふ化した幼虫は7~10日後には成虫となりますので、増え方はネズミ算よりも勝ります。



ハダニ

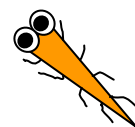
ハダニよりもさらに小さなホコリダニというダニもいます。名前の通り埃のように小さなダニで、一枚の葉っぱに数百匹の虫が寄生しているにも関わらず、視力自慢の人でも発見することはできません。しかし、汁を吸われた葉っぱが独特の形に変形するので発生していることが分かります。この虫がつくのはナスとピーマンなどトウガラシ類です。発生が目立つのは7~8月です。虫は成長点に好んで寄生するので、新葉は十分に開かず堅くなります。よって芯止まり現象が起こります。また、果実は表面が褐色に傷つき肥大が止まります。



ホコリダニ

ホコリダニと同じように非常に小さなサビダニという一族もいます。庭に植えたミカンの果実が褐色になって堅くなるのは、このダニ一家が食事をいただいた結果です。最近ミニトマトでも被害が増えています。茎は茶色になり、果実も赤くならず、褐色のまま硬くなります。

本来はマイナー害虫で、もっぱら無農薬栽培を行う有機栽培や家庭菜園でのみ発生します。ですから、農薬散布を行う農家サイドでは発生しません。



サビダニ